

# WORLD SCHOOL®

Where We Stand As One

HOME PAGE <http://www.world-school.com>

E-MAIL: [kanto@tkb.att.ne.jp](mailto:kanto@tkb.att.ne.jp)

---

全てのメンバー校で始められる、簡単な交流の例を紹介します。

関東国際高等学校は、1998年月上旬に、セント ポールズスクールと小さな交換を始めました。

世界教室の室長である黒羽先生は、関東国際高等学校で日本史を教えています。

グラント先生の生徒たちから、私たちの学校に送られてきた日本史に関するいくつかの質問が

書かれた簡単な一通の手紙から始まりました。ここに、この交換の一部を紹介します。

---

# WORLD SCHOOL®

## PROJECT DISCOVERY

### Japanese History



Sketch by Ms. Shan Wang 2<sup>nd</sup> year.  
Kanto International Senior High School

Kanto International Senior High School

Wednesday , July 15, 1998

---

## PROJECT DISCOVERY



親愛なるセント ポールのトーニャ先生と、生徒諸君へ

ごきげんよう 私の名前は、黒羽 融です。私は、世界教室長であり、そして関東国際高等学校の歴史の教師です。私の担当している高校 3 年生の生徒諸君が、皆さんと仲良くなりたいということを希望しています。そしてそのためには、皆さんを私たちの教室に招待するのが最善の方法であると考え、ここに、お手紙を差し上げる次第です。

日本は太平洋上の東アジア、中国の東に位置する弧状に連なる小さな島々と、四つの大きな島から成り立っています。国土の総面積は、377,688 平方キロメートルです。そしてこれらの島々は、海底からそびえたつ山の頂上です。総人口は、125,107,000 人で、その大部分の人々は、大都市に集中しています。

今から 10,000 年よりはるか昔にさかのぼることができる私たちの歴史は大変豊かで、沢山の個性的な出来事で満ち溢れています。私の学生と私は、この歴史を学んでいます。私たちは、12 世紀から 18 世紀半ばまでの歴史に大きな注意を払っています。なぜならばこの期間は、日本の歴史の転換にとって重要な時代として位置付けられるからです。そして、この時期こそが、現代の日本の基盤となっているからです。

私たちのクラスでは、日本や、特に日本の歴史についてのご質問にお応えしたいと考えています。皆さんの質問としては、次のようなものになるのでしょうか。例としていくつか挙げてみましょう

(例) 侍・将軍・能・歌舞伎・茶道・華道・

生活習慣(例えば畳の部屋)や労働慣行

私のクラスの生徒たちは、グループをつくり、現在の私たちがどのようにして、過去と結びついているかを説明する、時の流れの中にある小さな旅に皆さんをいざないます。

お返事を楽しみにしています。

関東国際高等学校  
外国語科 英語コース 科長  
日本史 教諭 黒羽 融



1) いつ、最初の漢字が記録されたか。 その漢字は何か、またそれは今でも使われているか。

最古の漢字は紀元前 16 世紀に中国で記されたものとされる。紀元後 3 世紀には大陸から日本へ伝えられていたことが確認されている。中国から伝えられた字体そのものが現在の日本でも使われているものもあるし、日本で新たに創り出された字体が使われているものもある。

漢字は世界の他の諸文字にくらべて格段に字数が多く、漢字を集大成した古い中国の字典ではおよそ 4 万 6 2 0 0 字を数えます。しかし実際には 1 万程度しか使われていません。

漢字の成り立ちとして特に古い物に、象形文字というものがあり、それは人や物の形をかたどってつくられています。

漢字の 1 つ 1 つの文字がそれぞれ意味を持っており、複数の文字を組み合わせることで、1 つの単語が成り立っています。例えば、“Companion” という意味の「友」という字と、“Man” という意味の「人」という字を組み合わせると “Friend” = 「友人」という単語ができます。



「金」という文字に “money” と “gold” という 2 つの意味があります。「学」と「習」という文字が共に “study” を意味するように、一つの漢字が 2 つ以上の意味を持つことや、2 つ以上の漢字が同じ意味を持っています。

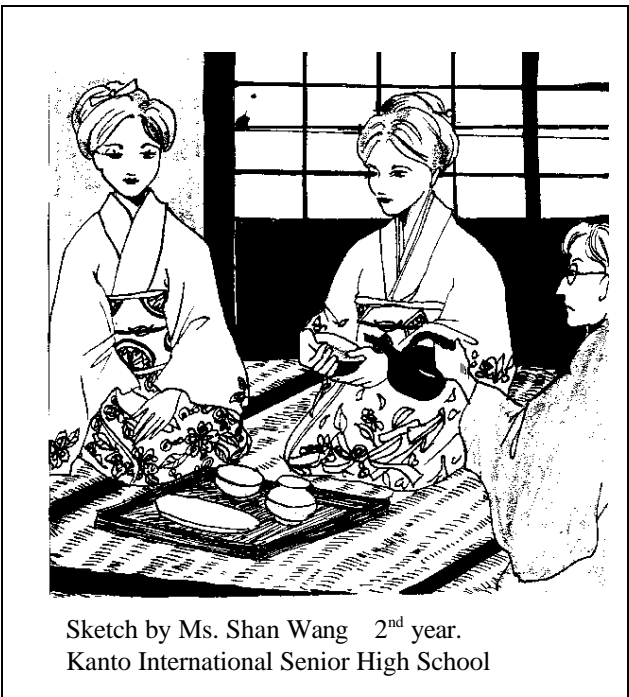
最初に述べたように、漢字は非常に数が多いので、全てを覚えるのは大変です。日本では小学校から一生懸命漢字を学習し、あなたの学校でスペリングコンテストがあるように、本校でも漢字コンテストが行われています。

松本 優美子、新堀 佳奈子、櫻井 恭子、村野 由佳、野村 晃子

## 2. 茶道はどのように発達したか。また、茶道の持つ意義は何か。

現在の人々は、「茶道」という言葉は知っていても、それが何なのか、どういう風に来上ってきたものなのかを知る人は多くありません。日本の家がすっかり洋風になってしまえばともかく、まだ畳の部屋が多くあります。その中で、ドタドタと歩き回っては、ほこりもたつし、畳もいたんでしまいます。そこで、茶道を学ぶ1つである、ゆっくり、しとやかに歩くことが重要になります。お茶碗などの食器類を壊さないように持ち運ぶのも茶道での習慣と同じです。私達は、実際、茶道というものに直接は触れていないものの、日常生活のあらゆる面で知らぬ間に茶道に触れているのです。

お茶を飲む習慣は最初に薬として中国から渡来したものである。729年に、我が国でもお茶を飲み始めていた。その後、遣唐使の最澄は、茶の実を持ち帰った。その後も茶は中国から輸入され貴族や僧侶の間で盛んに飲まれていた。しかし、894年、遣唐使が廃止されて、唐との交通が途絶え、茶の導入も止まった。平安時代中期(11世紀)になって、中国の宋との交通が復活した。宋に渡り臨濟宗を日本に伝えた栄西という僧侶をはじめ、その他の僧侶たちにより、どんどん茶が我が国で生産されるようになった。鎌倉時代(13世紀)には、宋から、茶に用いる器具も多く輸入されるようになった。室町時代(14~15世紀始め)には、お茶は遊戯のひとつのように考えられていた。その後、村



田珠光により、茶法の形式が変わった。そして、室町後期には、武野紹鷗のわび茶が出現した。

武野紹鷗の“わび茶”の精神を受け継いだのは、その弟子の千利休である。彼は、安土桃山時代に織田信長の下で茶道役として、大いに活躍した人物である。織田信長の死後は、豊臣秀吉に仕えた。秀吉は、利休の茶の湯を通じて、心のやすらぎを求めた。利休は、秀吉と共に、争いでおちつかない人々の心を沈めたり、荒れた武士の精神を和らげたり、武士と町民がうまく関係を保つために、お茶を広めた。次第に1587年には京都で茶会を催すようになり、利休のお茶はますます発展していった。そして、彼らの関係は、より深まった。ところが、4年後には、利休は、大徳寺に、自分の木像を安置したために、秀吉を怒らせ、切腹を命じられた。こうして利休は、“わび茶”の精神を武士や町人に伝えつつ、この世を去った。

利休の死後、江戸時代(16~17世紀)には、彼の子孫が、庶民の間に、お茶を広めていった。一時、千家茶道は中止されていたが、利休の子の苦勞の末、再興された。また、現在まで

続く千家茶道の基を築いたのが、利休の孫の千宗旦である。彼は、“今日庵”という一坪ほどの茶室を建て、町人を中心にお茶を広めた。宗旦の死後は、その子である、宗守、宗左、宗室が、それぞれ、武者小路千家、表千家、裏千家と三千家に別れて、彼は、大名の下で“わび茶”の精神の継承と発展につとめた。このように、千家茶道が現存するのは、茶人としてのすぐれた感覚と力量を持っていたからである。

こうした歴史をへて、今、茶道は日本人の間で興味を持っている人が増えてきています。世の中が複雑になってくるほど、わたしたちの心も体も共に疲れてきます。そんな中で、茶道は、この疲れをいやし、私達に新しい活力ややすらぎを与えてくれている。

本来、茶道の意義は、単に点前の手順を学ぶだけではなく、茶道で学んだことを人生に活かすことである。他人を思いやるということは、大変重要だとされている。例えば、茶道の1つの形式である濃茶というのがあるが、濃茶は1つの碗に茶をたて、客全員がそれをまわし飲む。全員が、客全員同じ量をさめないうちに飲めるよう気を配る。もし1人の客がゆっくりと飲んでいたら、濃茶は冷めてしまう。濃茶とは一碗の茶を囲み、心を寄せ合うという精神からきている。

別のこととして、私達が点前する時、必要な物全てを準備する。簡単なことのように見えるが、そうではない。私達は時々何かを忘れてたりする。しかし、そういう時でも動じてはならない。どんな状況下でも私達は最善を尽くすべきなのである。茶道を懸命に学ぶことによって物事に動じない人となれるのであろう。

茶道で学んだことを人生に活かすこと、これが、茶道の意義であると思う。

林 和歌菜、 石黒 望、 高林 由紀、 千葉 明也、 藤澤 仁美

### 3. 芸者はどこで始まったか。なぜ、彼女らはあんなに真っ白に化粧するのか。

芸者とは芸の巧みな者の事を言い、古くは遊芸に限らず武術に優れた者も芸者だった。江戸の中期（1600 - 1868）に、初めて現在につながるシステムができた。最初の芸者は男のエンターテイナーだったが、女芸者も出現した。彼らは料理屋、待合などで伎芸を演じ酒食を斡旋し興を添える女性である。

衣服は、黒ちりめんの着物に幅広の帯を後ろに垂らして、素足の爪に紅をさすなどの粋なものだった。また芸者としては珍しく羽織を着用していたので、町芸者は、羽織芸者とも言われた。

石器時代の土偶をはじめとして、古墳時代の人物埴輪では、左右の頬に朱を塗っている。3世紀に書かれた中国の史書「三国志」の（魏志倭人伝）の中に、日本人がこのようなことをするのは中国の化粧のようであると記してある。元々、おしろいは女性を美しくするためのものであり、江戸時代、おしろいで化粧することは、女性の間で流行った。

日本の化粧は、古代から江戸時代にかけて広まり、女性はおしろいで顔の欠点を隠していた。おしろいは中国から輸入されており、江戸時代に最も広まった。白という色は、アジアでは清純さと若々しさを表す。そして白く化粧をすることは、身分の高いことを象徴しています。反対に、当時日焼けは身分の低いことの象徴だった。なぜなら、身分の低い人は外で働いていたからです。しかし、いま若い人を中心に日焼けは日本での流行です。また、残念なことに、おしろいには鉛が含まれており、江戸時代には鉛毒で死んだ人もいました。

芸者になるために、10歳ぐらいから雑用を働きながら基礎技芸を習得して、半生を経て仕込む形態が典型だったが、現在はそのような形式はとっていません。芸者の総人数は年々減少し1920年に80,000人になり、1980年には10,000人までになった。

むかしは、身近なもので誰でも楽しむことが出来た。しかし、現代、芸者は政財界のエリートたちによって楽しまれています。

芸者は日本人の生活の違う部分で存在し、ほとんどの人々は接触しないので、関心をもっていない。しかし、現に芸者は存在している。彼らの功績は私たちの歌と踊りを伝える生きた文化財なので、私たちの評価を受けるのにふさわしい。

最後に、私達はあなたと同じように芸者について学ぶことができた。私達は芸者について3 - 4日でしらべなければなりません。だから、あなた方の質問に全てはこたえられてい



ないかもしれません。

山本 絢子、 村本 妙子、 米山 薫、 藤井 望、 吉田 麻衣

#### 4. 伝統的な日本において、着物を着ることはどのような意味を持ちますか。

これから、「日本の伝統という点で着物を着ることの意味とはいったい何ですか」という質問について説明します。

第一の理由として、礼儀の観念があげられます。礼儀とは、あの有名な思想家である孔子が考えたマナーの一つで、「道徳的社会実現の為に、そして社会の秩序を守る為の約束や決まりを意味します。このマナーが日本人の特徴的な観念として、千年以上も前から今日まで浸透してきました。服装の点において、着物はその礼儀のマナーを最もよく表しています。着物の形態は着ていく場所、相手そして、女性においては未婚か既婚かによって細かく区別されています。そしてそのことは、着物を着る際の決まりとして、必ず守らなければいけません。これをもし守らなかったら、相手に対して、大変失礼になりますし、そしてあなたの社会性を疑われてしまうでしょう。つまり、守ることにより、相互間での礼儀が保たれていることが表面化され、これが信頼関係を成り立たせるのです。このような理由で、着物は長い歴史を経て体系化された日本の最も正式な服装として今日にも根づいているのです。



そして昔、“ハレ”と“ケ”と呼ばれる2種類の日がありました。人々はそれぞれの服を着ていました。しかし今、私達はハレとケの認識はありません。その代わりに私達はさまざまな行事に合わせてそれぞれの着物を着ます。

それでは今日において、私達がどんな日にどのような着物を着るかと言うことを具体的に例を挙げて説明しましょう。結婚式のようにとても正式な場においては、やはり着物も正式なものを着ます。前に述べたような未婚か既婚かによって着る着物が違うのがこの場合です。既婚の女性の場合の正式な着物は“黒留袖”という着物です。“黒留袖”の“黒”は“ブラック”、“留袖”は“短い袖”という意味で、短い袖を着るのが既婚者のきまりなのです。そして“黒留袖”には必ず5つの家紋(ファミリーシンボル)が入っています。これに対して、未婚の女性は“振袖”を着ます。“振袖”とは“長い袖”という意味で、色もある程度未婚者のほうが明るい色です。それからパーティーなどに呼ばれたときには“訪問着”を着ます。最近では生活の西洋化にともなって日本人がパーティーに着物を着ていくことはあまりありませんが、格の高いパーティーには着ていく人も多いようです。“訪問着”とは“訪ねるときの着物”という意味で、全体にわたって1つの大きな絵が描かれています。しかし実際には、日本人の着物を着る習慣はうすれている傾向



にあります。そんな中で日本人と着物の関係を保っているといえるが“ゆかた”です。“ゆかた”は最も広い世代にポピュラーで夏の行事によく着られます。“ゆかた”は絹で仕立てられてはいません。木綿で仕立てられています。したがって、値段も安く手に入りやすいし、着物ほど厳しい決まりもないので多くの人が好んで着ます。夏になると電車などで“ゆかた”を着ている若者も多く見られます。

最後に、着物は日本の衣類において素晴らしい芸術的価値があるということです。着物は、中国から伝えられた絹で当初は作られました。それは、とても美しいものです。だから、今でも着物を着たいと思っている人がいます。着物にはまた、さまざまな色や柄もあります。例えば“絵羽”模様という古典的な柄や、“松竹梅”などが挙げられます。

このような理由において、着物は今日に生きる私達と密接であります。そのことは私達の心の中に古来からの日本人の精神が残っていることを表しているのです。

解答者...関根 菜美子、泉谷 佳代子、秋山 ゆかり  
足立 敦子、高瀬 雅代